



まだ
できるだろ
立てっ

帝国軍第13砂煙団所属
分隊長
エラストス(34)

この程度で
へばってちゃ
次の演習で
ついてこれんぞ



べえ
とてももたない
も、もう田舎に
帰りたい...

これがあと
2年もなんて...



さあ!

ズリ...

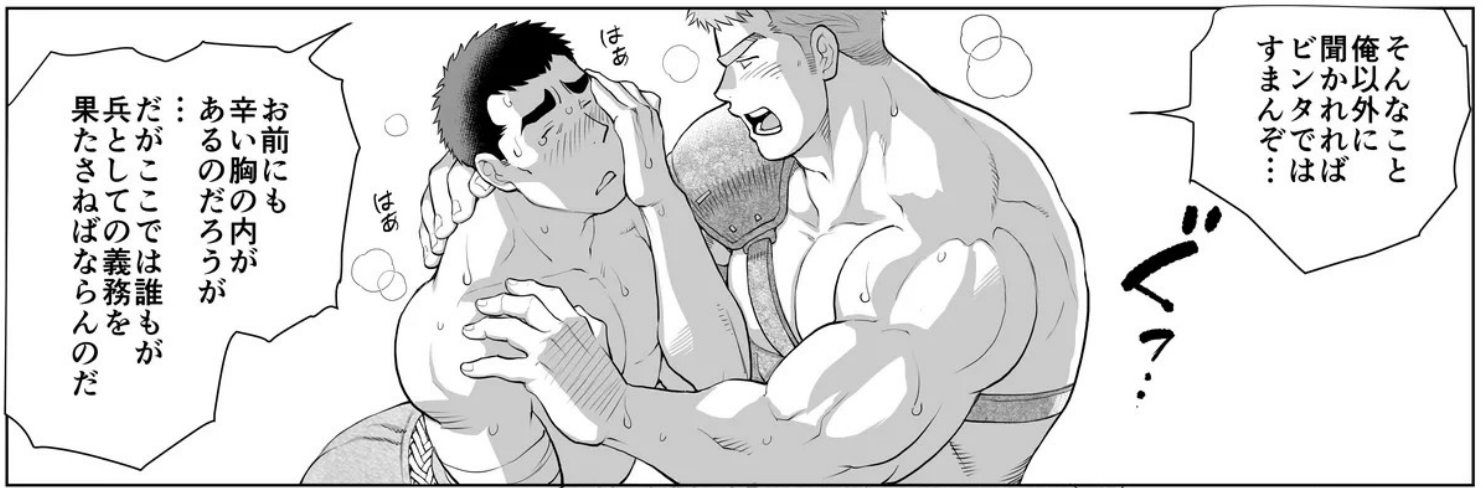
も、もう
無理です
分隊長...

私エラストスは
ここで自分の隊を
指導する下士官の一人...



あ...

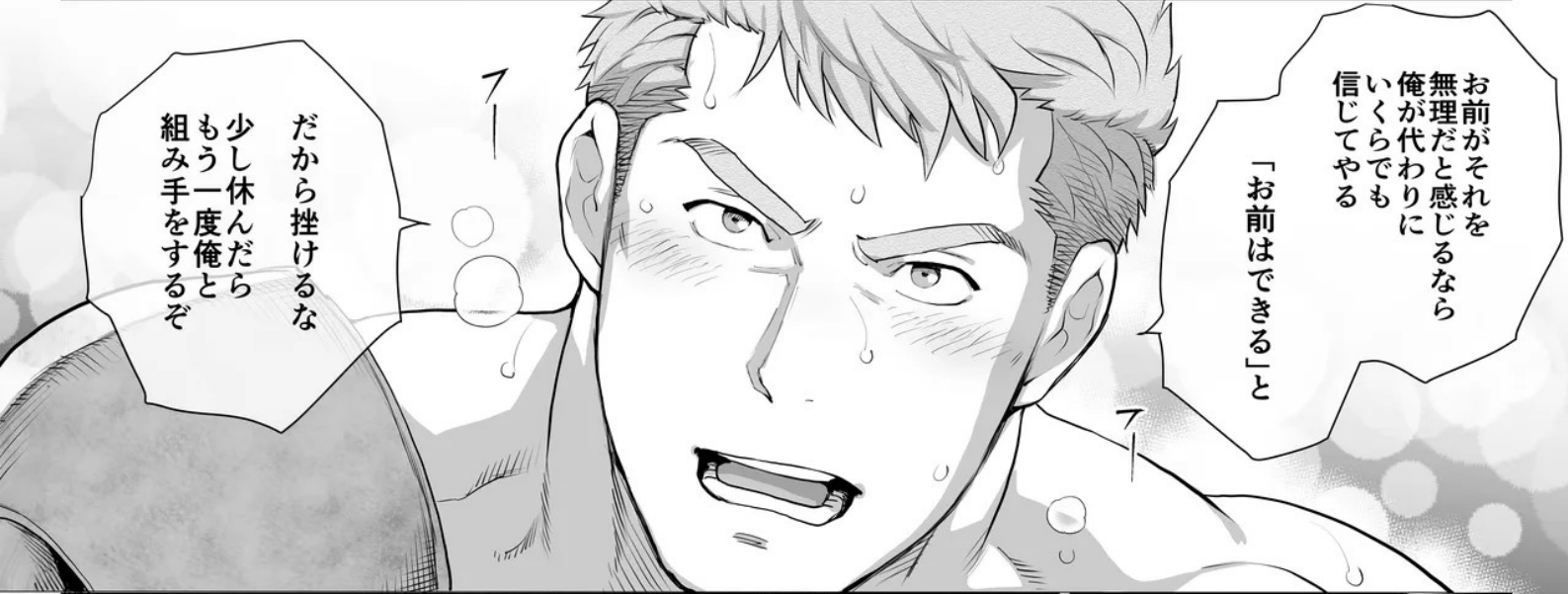
あ...



そんなこと
俺以外に
聞かれれば
ビンタでは
すまんぞ…

お前にも
辛い胸の内が
あるのだろうが
…
だがここでは誰もが
兵としての義務を
果たさねばならんだ

ぐい…



お前がそれを
無理だと感じるなら
俺が代わりに
いくらでも
信じてやる

「お前はできる」と

だから挫けるな
少し休んだら
もう一度俺と
組み手をするぞ



偉ぶらない上に
熱くて親身で…
上級士官たちより
剣の腕もたつて
聞くぜ

ハッポがあんなだから
熱心に付き合そ…
演習でついでにけいな
方が地獄じゃない

エラストス
分隊長って
良い上官だよな



分隊長

ははは

だいたい
俺の隊の中で
こんなに訓練嫌いなのに
これまで食いついてるんだ
根性は人一倍だぞ

お前の故郷の母さんに
そう書いて手紙送りたい
くらいだ

か、勘弁して
くださいよお…

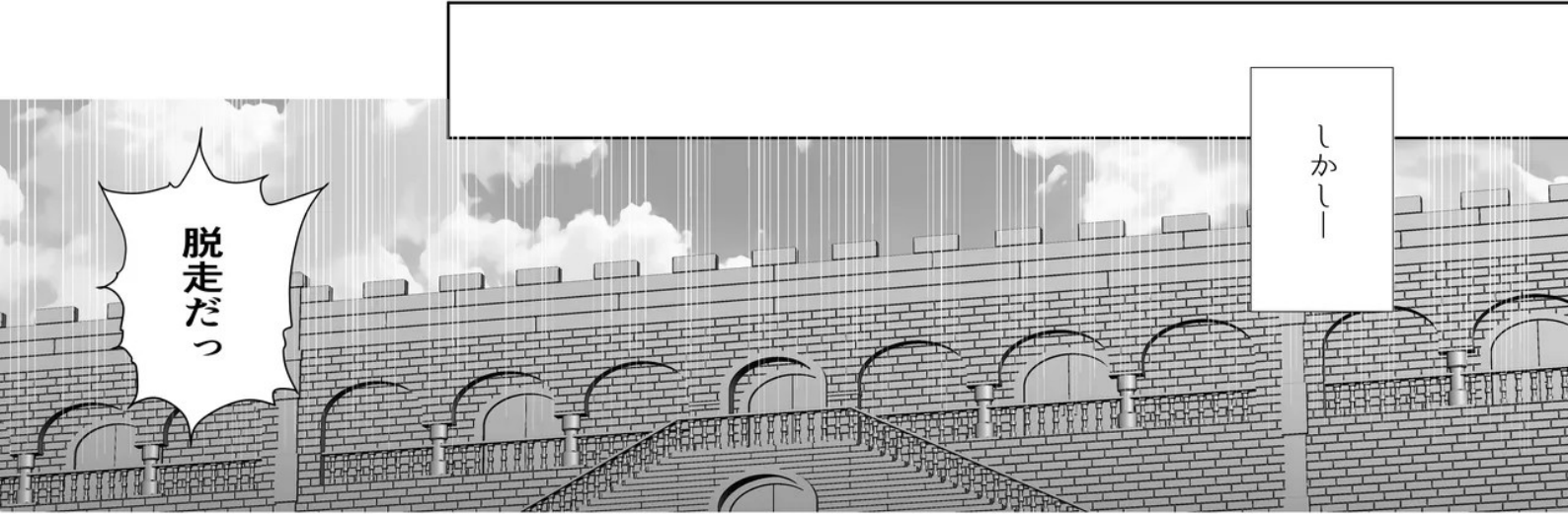
じわ…



若い兵たちは
良くも悪くも
手がかかる…

だが私は
彼らの欠点も
愛しながら

上官として
指導をする
自信を持ち始めて
いた時期だった…



脱走だっ

しかし—



そして
罪滅ぼしにか
わすかながらの
金貨が入っていた



まさか
金貨を見て
自信が打ち砕かれる日が
来ようとは…

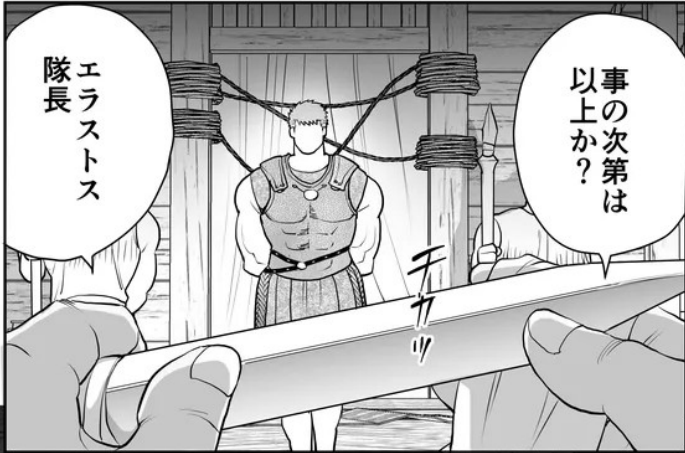


分隊長…
ペッポのやつ
朝起きたら
いなくて…

置き手紙には
今までの礼と
脱走したことへの
謝罪の文章…

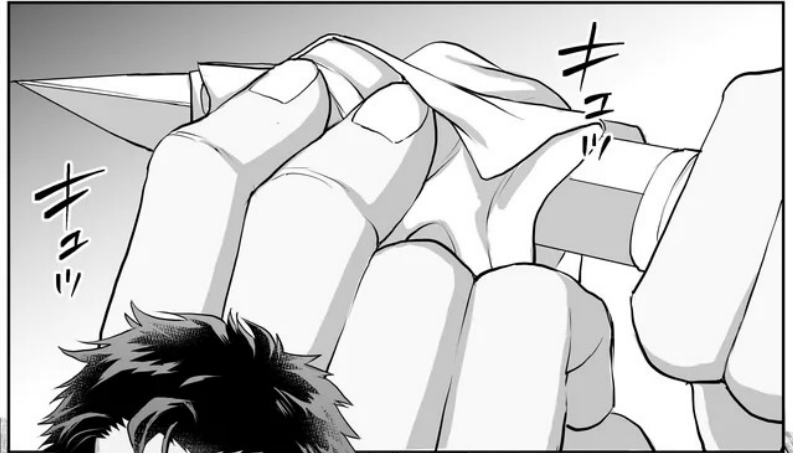


駐屯地司令官私室



隊長
エラストス

事の次第は
以上か？



キユッ

キユッ



ん？

どうも私には
まだ説明が
足りていないように
感じるがね…

西マヌ丘陵地域駐屯地
司令官 ジオルゴ(42)



ジオルゴ
司令官：

この駐屯地の
責任者であり
規律違反者への
罰は彼の裁量で
決まる

今回の件：
駐屯地からの
脱走は重罪
であり：

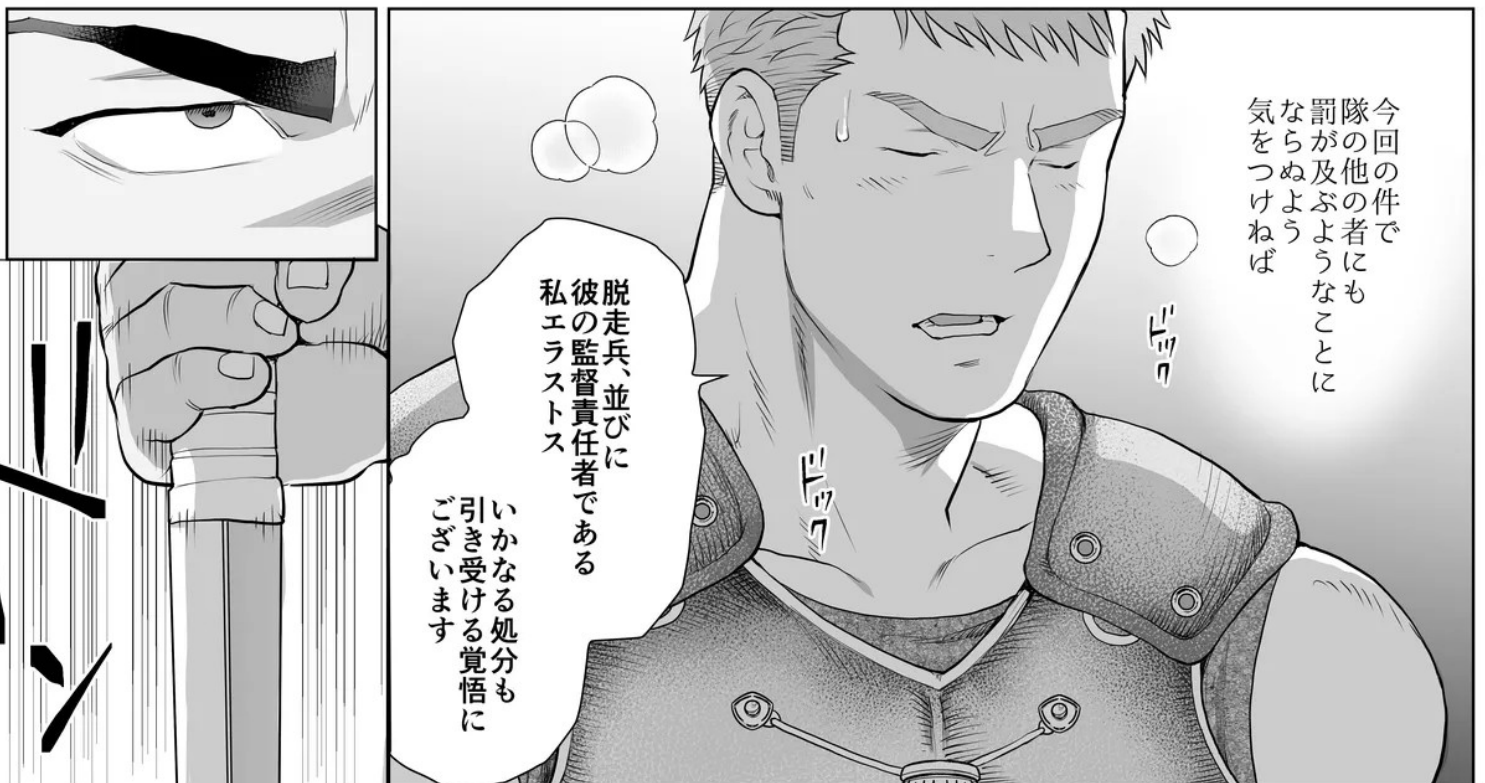
は…っ
その…
ですから…



当然従うべき
上官であるが
苦手に思う俺がいる

ただちに
追跡班を
遣わせましたが—

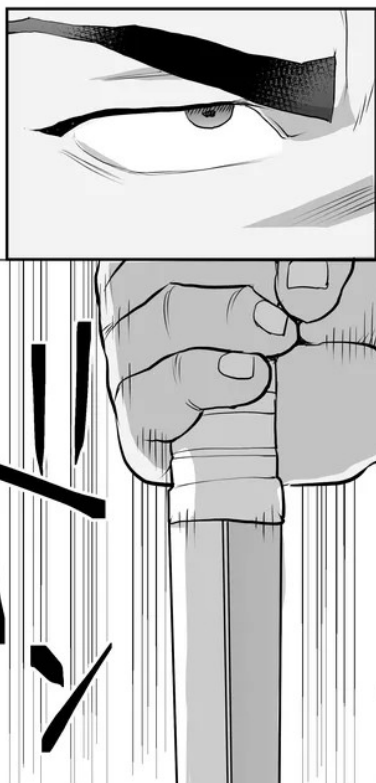
剣の腕はたつが
気難しく
彼の機嫌を損ねて
言いがかりのよう
な罰を受ける者も
多いと聞く



今回の件で
隊の他の者にも
罰が及ぶようなこと
ならぬよう
気をつけねば

脱走兵、並びに
彼の監督責任者である
私エラストス

いかなる処分も
引き受ける覚悟に
ございます



分かって
いないようだな
分隊長

カッ

今説明を
求めたのは—

お前自身の
容疑が
まだ晴れていない
ことについてだ

エラストス
分隊長

カッ

カッ





どうも…

はっ…？

置き手紙と共に
金貨を
貰ったそうじゃ
ないか？

エラストス
分隊長…

カッ

カッ

ビッ
パッ

カッ
カッ

ビッ
パッ

まさかお前

奴の脱走計画に
加担する代わりに
金品などの見返りを
貰っていたー

などというのでは
あるまいな？



わ…

私が彼の
脱走に協力
したと…!!?

そのようなこと
断じてありませぬ

口では
いかようにも
言えよう

当然お前の
私室は改めさせて
もらうが…

潔白を証したい
というなら

今
その着物の下に
何も隠していないか—

今この場にいる
者全員の前で
すべて見せろ

脱げ



フツフツ...

...は...

...己には
一片の隠し事も
無かったが...

ツツツ

フツフツ...

フツフツ...

ジオルゴ司令官の
刃物のような視線が
突き刺さる中
衣を脱いでいくのは
非常な緊張感を
ともない...

警護の者に
鎧を渡す頃には
自分の身体を汗が
びっしょりと
濡らしていた...

緊張を伴う汗からは
においを強く
感じる…

むわっ…

肌着をまくると
その己の体臭が
狭い部屋に広がり…

その時—
自分には隠し事はないが
監督者としての過失は
たしかに
あることの恥を
感じた…

…下も当然
すべて脱いだ方が
良いのだろう



緊迫した空気の中

誰も一言も発さぬまま
自分だけが
一糸まとわぬ
姿になり…

部屋にただよう
体のおいも
より一層濃くなった
ように感じた

モウ?

ハア…

ハア…

どん

いっ?

ん?

その恥ずかしさは
部下を管理しきれなかった
己の情けなさを
突きつけられているようで…

逃げ場のない
二重の羞恥心に
俺は情けなくも
ただこの時間が早く
過ぎるよう願うばかり
だった…

なるほど

たしかに衣服
及びその中には
なんの怪しい点も
ないようだが…

で…

何をジッと
している？
隊長

クワ

クワ
クワ
クワ

…は…っ？

クワ

クワ

クワ

す・べ・て・見・せ・ろ
と・い・う・意・味・が
分・か・ら・ぬ・の・か？



ここだ

グニッ

っ

ヒキッ

ヒキッ

この中に何か
隠して見せろ

な...

...あつ...

何を戸惑う...

間者や
規律違反者の使う
ありふれた手法
だろう

モタモタするな
上官の手を
使わせる気か？

自分で
肛門を広げろ

エラストス
分隊長

ヒキッ

グニッ
グニッ

グニッ

だが真意を
疑いつつも
従わざるを得ぬ…

司令官の意図が
なんであれー

機嫌を損ねて
隊の他の者に
しわ寄せがいつては
ならぬ…

こ…こうで
よろしいで
しょうか…
司令官殿…

もっとだ
よく見えぬ

は…っ
は…っ

…いかが
でしょうか
司令官殿…

どっかん

どっかん



ならば
私自身で
調べる他
あるまいが...

お前の潔白のために
こうしてやるのを
有り難く思うのだな

は...

...っ!

し...
司令官...
ど...の...

動くな
指が
押し戻される

ははっ...
ははっ...

ははっ...
ははっ...





どうした
エラストス
分隊長
そのように
身をよじって

身の潔白を
証さねば
ならぬ場だろう
神妙にしろ



司令官の指は
俺自身も知らぬ感覚を
刺激する場所を
執拗に撫で続け…

ん…はっ…
はい…っ

ならば
証明せよ
このような
刺激では
果てはしないと

うっぐ
…

ああ…っ

この習慣の無い者が
尻穴を弄られて
上官の前で達するなど…
ありえないことであろう？

そ…
そ…うっ…
ですが…

くっ…
うう…っ



ゴク

ビク

シクシク

ゴク
ゴク

ブル

ブル

ブル
ブル

ブルブル

ガクガク...

ビクッ

俺はもう
なすすべも
なくー

堪らえようとす
俺の意志など
おかまいなく
腸内を愛撫する
司令の指...
上がってくる
快感の波...

しっ...
司令官...

ど...のっ

も、もうっ
ご勘弁を...

あっ...
あ...ああ

お前の立派な
男根も

そのように
泣きっぱなしでは
情けないな

は...う

おっ...
お許し... あっ...く...う
を...!! も...もう...!!

ガク
ガク

ニニ

ニニ

ニニ

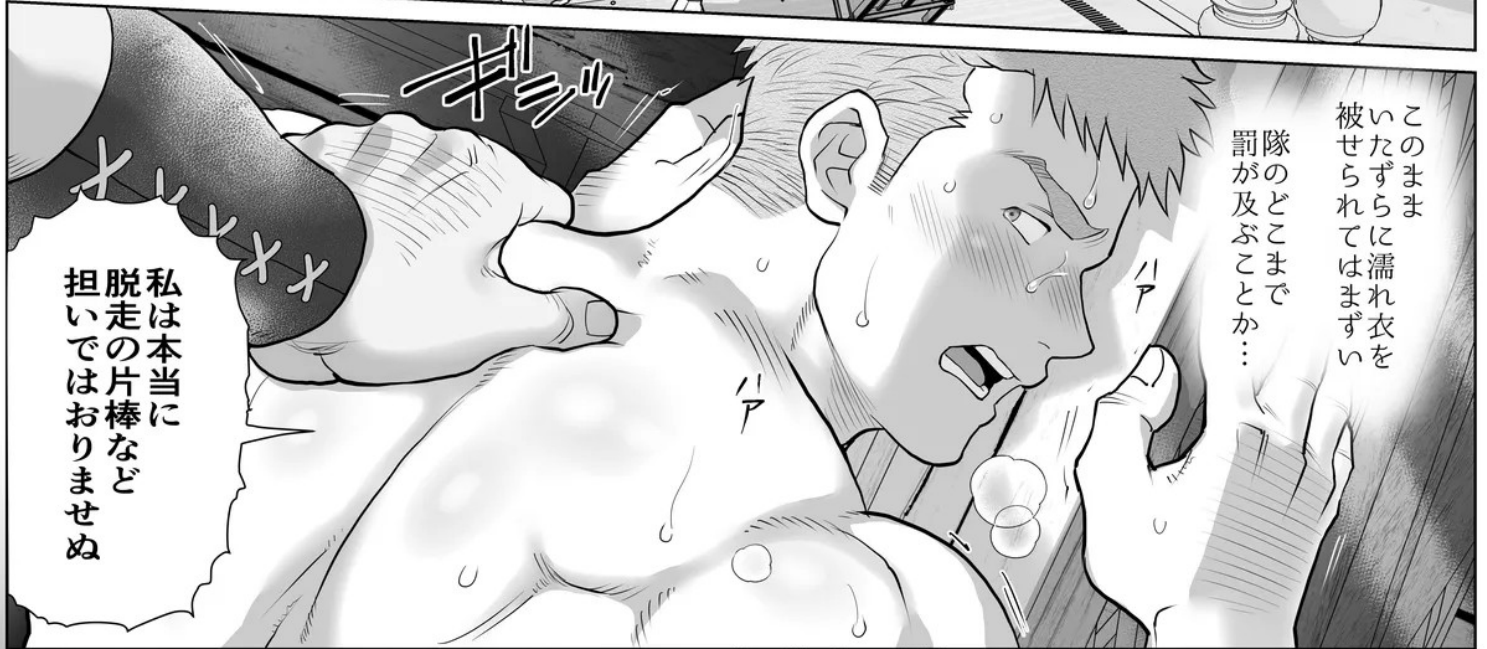




ど…どうか
信じて
ください

ま…まさか
上官の手による
調査で達して
しまうなんて…

いやそんな
ことに動揺して
いる場合ではない



このまま
いたずらに濡れ衣を
被せられてはまずい
隊のとこまで
罰が及ぶことか…

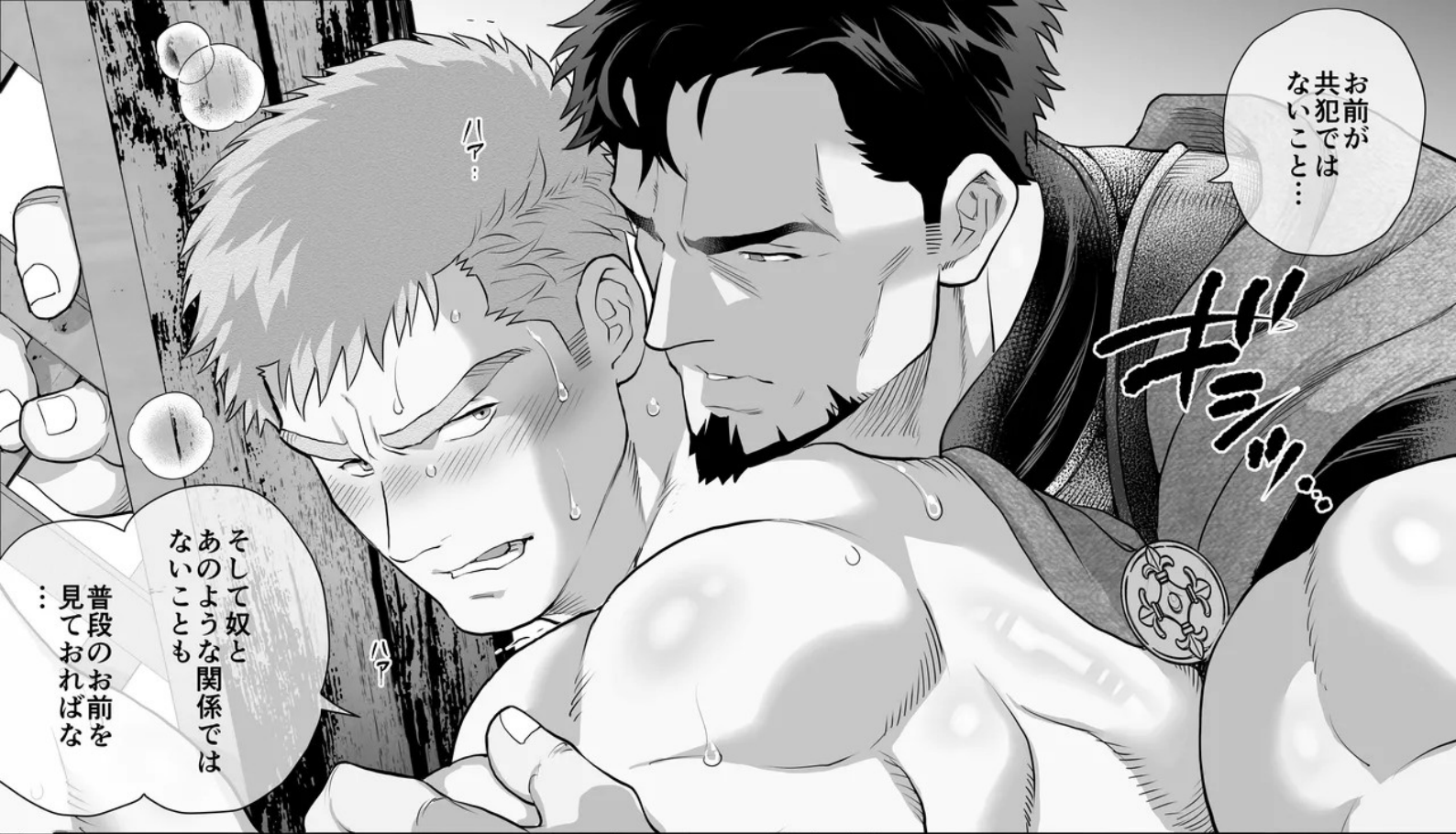
私は本当に
脱走の片棒など
担いではおりませぬ



けして保身で
申しているのでは
ございませぬ

私も…
我が隊の者たちも
皆まことに国に
尽くす気持ちで
日々…!

…分かって
いるとも…



お前が
共犯では
ないこと…

そして奴と
あのような関係では
ないことも
… 普段のお前を
見ておればな



立場上
部下の前で
見せしめを兼ねた
追求を行わねば
ならなかったが



まるで熟した
果実のような
熱い肉体…

それを内側から
律する
健全な精神…



私はお前のことを
正しく評価して
いるとも
エラストス
分隊長…

ジオルゴ
司令官…!?



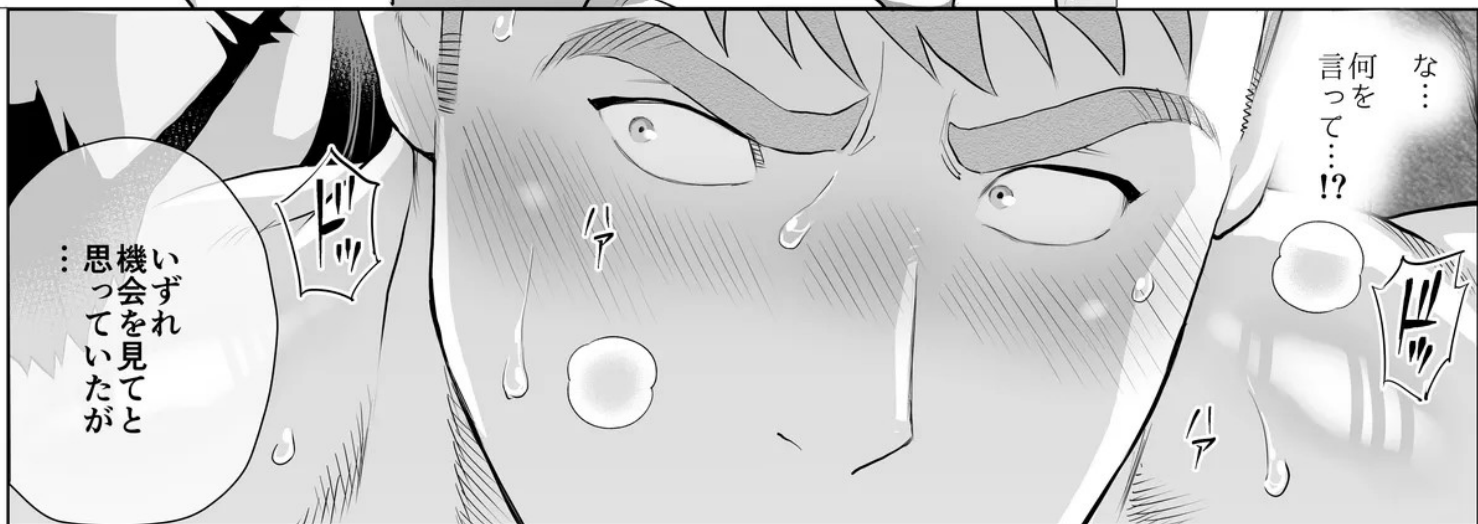
まさに武人の
目指すべき
姿だ…

そのような
純粋な兵を

…私は…

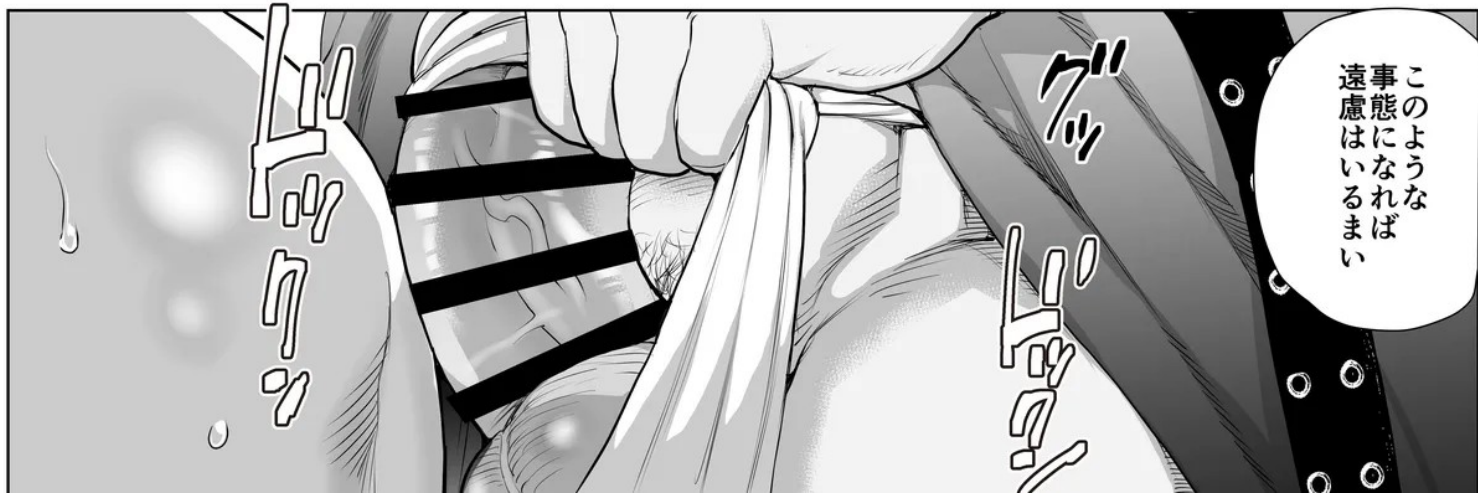
自分好みに
調教するの
好きなのだ
よ

分隊長



な…
何を
言っ…!?

いづれ
機会を見て
思っ…



このような
事態になれば
遠慮はいるまい



隊から脱走兵を
出したことのお前の罰は…

…!?

私の「懲罰俵」を
くらうことで
丁度いいだろう…?



… エラストス

私を受け入れる
だろうか…?



しっ…

司令…



ま...
待っ...

ズ

あ...っ

始
は
は

ズ

しっ...
司令...っ

ズズズ...

かっ...
あっ...
あ...!!

な...っ

ズ

俺の
中...

ズズ...

ズ
ズ
ズ

しっ...
あ...っ

司令官の...
肉棒が...

は...っ
あ...!!

ズズ...



し…信じ…
たかない…

エラストス
分隊長…

うっ

だが…

俺の中で
前後に動く
この熱い物体は…
間違いなく

ぐっ
はっ



さっきたっぷり
ほぐしてやった
からお前も良い
だろうが…

ん？

うっ



あ…っ
ああ…

お前の中は
ぬめっていて
心地良いぞ…

俺を犯す…
司令官の
男根だ…

ズン

ズン

ギッ

びびびび…

心はまるで
ついでに
こないのに…

…体が
つが

く…っ
ああ…

よく見てみる
抜き差しされるたび
締まる己の肛門を…

あつ…
はあつ…

お…おやめ
下さい…っ
司令官殿…!

フン…
無理に拒むな
初めて尻穴を
弄られて
吐精するような
感じやすい体で…

私の竿を
何度も
気持ち良く
締め付けてきて…

上官思いの
尻穴だな
分隊長

や、やめ
…違う

内側からの
快楽で再び
果てたくて
たまらぬか？





エラストス
分隊長…

はあ…
はあ…

…こと

…こと
…こんな



まだ
味わい足りぬ
だろう…?

良かったぞ
だが…



脱走兵が
見つかるまで…
それがお前の
罰だ…

明日から毎晩
ここへ通え

お前の隊には
悪いようには
せん…



ハッ
クン…



フッ
フッ

帝国暦246年

先の戦いで
主なる戦場であった
この西マヌ丘陵地域に
我が国の軍が
安定的に駐屯するように
なつて3年：

分隊長エラストスの 従軍日誌

ここでは
兵役についた若者達が
日々任務と訓練に
励んでいた

帝国軍
西マヌ丘陵地域駐屯地

